

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
岡山県真庭市	・地域通貨に旅先納税機能を実装することで、地域通貨を活用した新たな外貨獲得、地域への”コト消費”の喚起戦略。実現性が高く横展開モデルになりうる。 ・真庭市での多様な取組を束ねるデジタル地域通貨の統合効果を期待する。 ・真庭市はSDGs先進都市のさらなる高みを見せてくれることが期待できる。 ・デジタル地域通貨アプリの地域づくりへの活用のために外部人材を活用したいという点はSDGsの観点からも理解できる。 ・専門家の滞在日数を80日としており、専門家派遣を重視している。専門家を活用し高みを目指すものと見受けられるため、挑戦してほしいと考える。 ・専門家の宿泊費として80日計上されていることから、専門家が住み込むかたちで支援を行うという点に熱意を感じる。 ・2020年度に市民・市内事業者・商店の協力のもと、耕作放棄地活用に係る環境保全活動を促進するための市民ポイント制度の簡易実証とその有効性は確認済みとのこと。提案の必要性は認めるが、真庭市はSDGs先進地域という認識のもとで、今どの段階にあり、その先へ進化するためにこの課題がどのように重要なのか、といったことが明確にわかる提案だと良かった。 ・専門家がここまで何度も何日も行く必要があるのかが疑問。地域通貨とふるさと納税の組み合わせは興味深いが、真庭市であればもう少し別のアプローチも可能であると思料する。 ・地域通貨を開発している企業・有識者へ任せきりにならないか。